

まちづくりプロジェクト（H28～）

① JRおおさか東線が開業し、JR淡路駅が設置されました

おおさか東線は、旅客輸送を行うため城東貨物線の施設や用地を活用しながら複線化・電化を行い、新大阪駅から大阪東部地域を経て大和路線の久宝寺駅に至る旅客線を整備したものです。当区においては平成31年3月に開業し、新たにJR淡路駅が設置されました。令和5年3月には大阪駅までの運行が開始され、重要な交通インフラとなっています。



② 歩道橋を設置し、開かずの踏切をなくしました

JR東淀川駅の直近に位置する宮原踏切（北・南）は「開かずの踏切」で、線路を超える東西の往来が不便でした。JR西日本と共同で、JR東淀川駅の橋上化にあわせバリアフリー化した歩道橋を併設し、安全に線路をまたいで東西の行き来ができるようになりました。



③ 阪急を高架化し踏切をなくします

（令和10年度 高架切替・令和13年度完成予定）

阪急淡路駅を中心とした、阪急京都線3.3kmと千里線3.8kmの鉄道（淡路駅、崇禅寺駅、柴島駅、下新庄駅）を高架化します。17箇所（吹田市域1箇所含む）の踏切を除却し、都市計画道路歌島豊里線などの交差道路を整備することで都市交通の円滑化や鉄道により分断された市街地の一体化を図ります。



④ 淡路駅周辺の街並みを整えます

（令和13年度完成予定）

阪急淡路駅周辺地区は、阪急淡路駅を中心に商店街が形成され、老朽木造建物が密集した市街地でした。現在、阪急連続立体交差事業にあわせ、良好な市街地を形成するため、駅前交通広場、道路や公園、良好な住環境の整備など、区画整理事業を進めています。



⑤ 区内の歌島豊里線が全線開通します

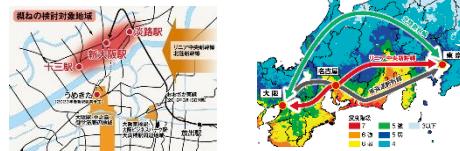
（令和13年度完成予定）

当区の東西方向の主な移動は、府道大阪高槻線に頼っています。都市計画道路歌島豊里線が開通すると、淀川区のJR新大阪駅方面との行き来が飛躍的に改善されます。現在、阪急京都線から千里線までの区間が未整備ですが、阪急連続立体交差事業による高架切替後、道路整備が予定されています。



⑥ 新たな新幹線により全国とつながります

リニア中央新幹線は、東京・名古屋・大阪間の3大都市圏を約1時間で結び、そのインパクトは単なる経済波及効果に留まらず、国土の構造を変え、日本の国際競争力を強化し、日本人のライフスタイルをも変えるきっかけとなることが期待されています。北陸新幹線は、首都圏、北陸圏及び関西圏をつなぎ、各地域間の交流・連携を強化し、我が国のさらなる成長・発展を支えるとともに、東京・大阪間の2大都市圏をつなぐ国土軸の3重化により、首都機能のバックアップ体制の整備、大規模災害に強い国土形成に資する極めて重要な高速交通インフラです。



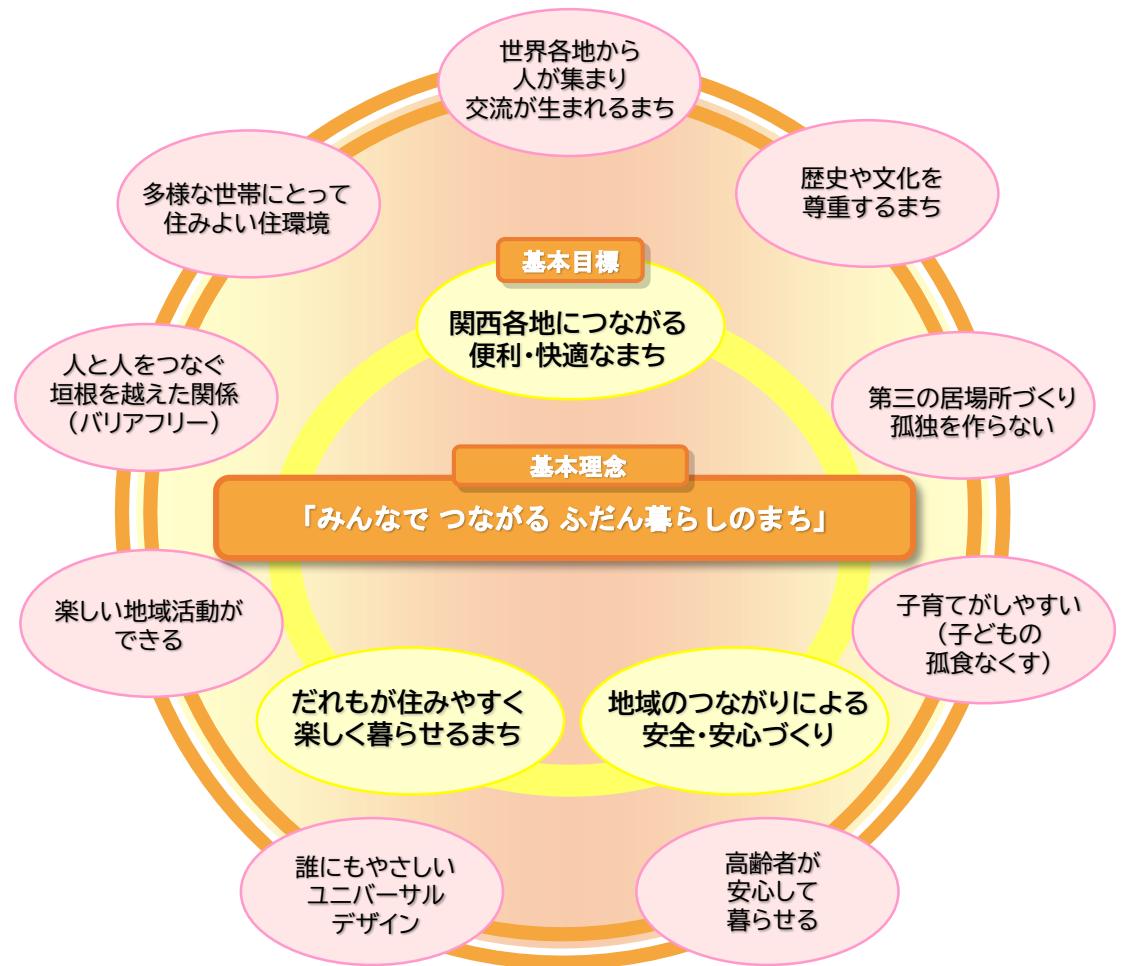
⑦ 柴島浄水場用地の活用を検討します

将来の水需要を踏まえ、浄水場のダウンサイジングを実施します。ダウンサイジング後の土地有効活用と、新大阪・大阪エリアのまちづくり構想を踏まえ、関係先と実施に向けた調整を行っていきます。



変わりゆく西部地域のまち

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり



東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想 「みんなでつながる ふだん暮らしのまち」

関西各地につながる
便利・快適なまち

世界各地から人が集まり
交流が生まれるまち

東西を結ぶ幹線道路ができます




地域全体の利便性が向上し、活力が生まれます

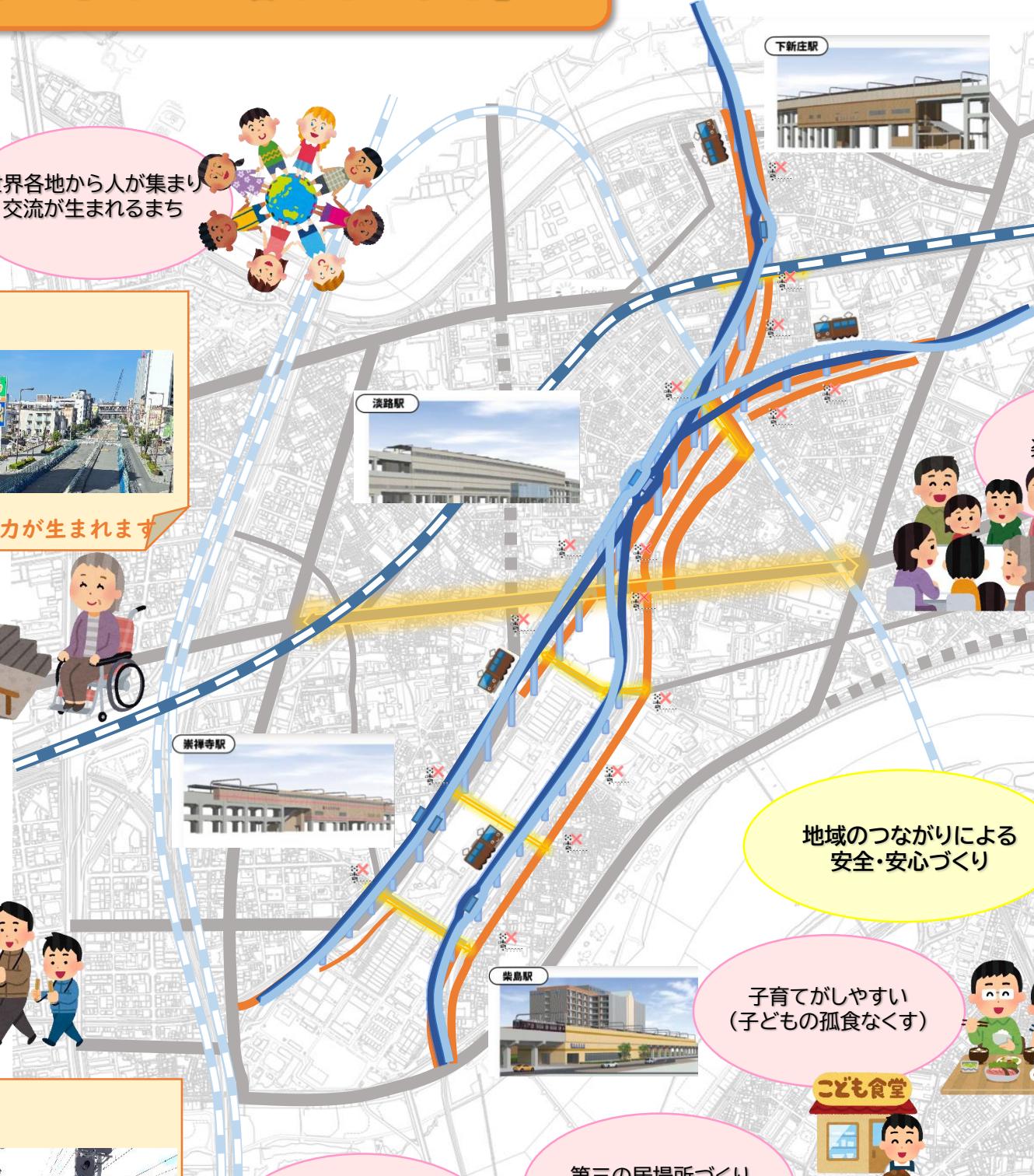
誰にもやさしい
ユニバーサルデザイン

人と人をつなぐ
垣根を越えた関係
(バリアフリー)

駅前の道路が広くなります




駅を中心とした人の流れが生まれます



高架沿いに道路ができます




沿線環境の保全と地域アクセスが向上します

だれもが住みやすく
楽しく暮らせるまち

多様な世帯にとって
住みよい住環境

楽しい地域活動が
できる

踏切が高架下道路になります




行き来しやすくなり交流が促進されます

地域のつながりによる
安全・安心づくり

子育てがしやすい
(子どもの孤食なくす)

歴史や文化を
尊重するまち




高齢者が
安心して暮らせる

第三の居場所づくり
孤独を作らない

高架下が様々な用途に活用できるようになります




新たな用途で地域の活性化が促進されます

